

# ふしおっこ日記

令和7年12月18日



## 1年あきまつり

1年生が「あきまつり」を行いました。秋に採れたドングリ等を使っておもちゃをつくって店を開き、他のクラスの友達を招待しました。1クラスを招待した後、振り返りを行いました。「おもちゃまつりをしてみて、どうでしたか」と担任の問いかけに、「楽しかった」と多くの子供たちが答えました。その後に、「もっと詳しく言えます」と手を挙げた児童がいました。その児童は、自分たちのグループの行動を振り返り、改善点について話しました。さらに改善したい児童が多く、次の時間までにより良くするための時間を取ることになりました。

次の時間は、他の学級子供たちがまつりに参加しました。終わった後、また振り返りの時間になりました。よかったです、うまくいかなかったことを 子供たちが次々に発表していました。その様子を見ていて、4年生のやまのこ体験学習の姿と重なりました。4年生の子供たちは、体験学習を終えた後に、前の児童とは違う内容の感想を次々に話す姿が見られ、所員さんに褒めていただきました。その姿は、1年生、また保育園や幼稚園の時代、さらに言葉を話し始めた頃から育まれてきたものだと感じました。今回は、子供たちの発表に、必ず担任がうなずいたり、話の内容について認めたり、さらに質問をしてみたりと丁寧に反応を返していました。その反応に対して、もっと話したいという気持ちが高まっているように感じました。子供たちのまわりの大人が、子供たちの話をしっかりと受けとめて反応を返すこと、どんどん考えて表現する力を付けていくのではないかと思う場面でした。

